

北九州市新科学館「スペースLABO」に 九州工大ブースが出演

九州工業大学管理本部企画部広報課広報係 小林 祥子



スペース LABO 外観

市立大学の3大学が並んで紹介されています。ここでは、九州工大の紹介動画と、九州工大が誇る2つの研究を紹介しています。

①『キャンパスで人工衛星を作る！

遠い宇宙を、誰もが手の届くワールドに』工学研究院 宇宙システム工学研究系 趙 孟佑 教授

②『医療福祉の未来を変える「スマートライフケア」』生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻

柴田 智広 教授

これらの研究情報は、Kyutech LAB(キューテックラボ)という広報媒体からピックアップしています。



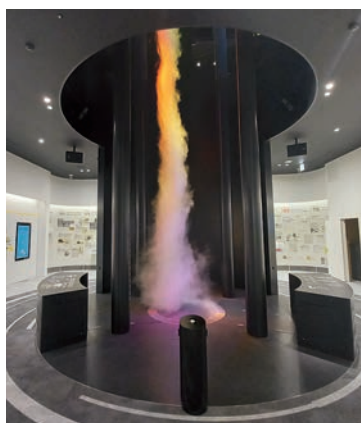
跡地「THE OUTLETS KITAKYU-SHU」内に新たな科学館「スペースLABO(ラボ)」として生まれ変わりました。

このスペースLABOは、本学の展示ブースが2カ所設けられています。1つ目は、1階サイエンスLABO

に設けられた大学紹介ブースです。九州工業大学・早稲田大学・北九州

学連携拠点の名前もGYMLABO(ジムラボ)。ラボつながりでご縁を感じます。

また、この1階フロアには、本学の卒業生、竜巻博士(Mr.トルネー



竜巻発生装置

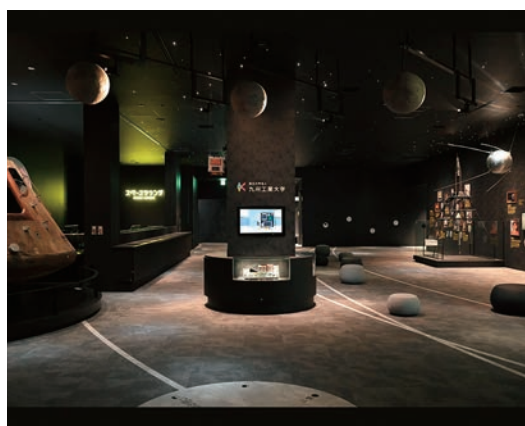


大学紹介ブース

ド)こと藤田哲也先生にちなんで、国内最大の竜巻発生装置があります。建物の2階にまで届く巨大竜巻は圧巻の迫力です。さらに、7月22日からプラネタリウムで「嵐の名探偵T(テッド)―伝説の気象学者・藤田哲也―」が公開予定です。

そして、プラネタリウムのある3階スペースラウンジには、本学がこれまでに関与した宇宙での運用(運用数は大学・学術機関中4年連続世界1位!)を行ってきた人工衛星のうち数点の模型が展示されています。同じフロアに月の石やアポロ司令船

なども展示されており、学生たちが開発した人工衛星がこれらの歴史的な宇宙船と同様に宇宙空間で運用されていること想像すると、感慨深いものがあります。人工衛星の研究開発に関する動画も放映していますので、プラネタリウムに入る前の待ち時間にご覧ください。



スペースラウンジ(写真中央が本学衛星展示)

スペースLABOは、一人ひとりが感じる「フシギ」の芽を大切に、その芽をさらに育んでいく体験・体感型の科学館です。この場所に九州工大のブースを置かせていただくことで、訪れる子どもたちの科学の芽を育むことにつながればと思います。スペースLABOに来場される際は、1階と3階の九州工大関連の展示ブースにぜひお立ち寄りください。